実践2027　正誤表

巻	書籍頁	アプリ	項目	誤	正	訂正日	参考:2026 書籍頁	参考:2026 アプリ
1.必修	56	訂正あり	117C15 a肢解説	×a:照射録は2 年間保存することが医療法施行規則で規定されている。	×a:照射録には法令上、保存期間についての記載はない。	2026/8/7	57	訂正あり
	―	訂正あり	107C12 a肢解説	×a:咬合平面板は咬合採得時の最初に仮想咬合平面を決定するため使用する。すでに使用を終えている。	×a:咬合平面板は、咬合平面を基準として上顎模型を平均値咬合器に装着する際に用いる器具である。ラボサイドで使用するものであり、顎間関係記録後の外来では使用しない。	2026/5/14	―	訂正あり
	379	訂正あり	109A14 d肢解説	○d:occlusal plane guideは咬合平面板のことである。	○d:occlusal plane guideは咬合平面設定板のことである。	2026/5/28	375	訂正あり
2.基礎上	208	訂正あり	118B69 b,d肢解説	×b,d:Krause小体、Meissner小体は、上皮～真皮に存在する機械受容器である。前者は遅順応性で後者は速順応性である。一次感覚ニューロンの～	×b,d:Krause小体、Meissner小体は、上皮～真皮に存在する機械受容器で、両者ともに速順応性である。一次感覚ニューロンの～	2026/9/9	―	―
7.全部床義歯学 部分床義歯学	57	―	109A69 ここ大事	①仮想咬合平面の決定:咬合平面板、切出刀、ろう堤形成板、パラフィンワックス	①仮想咬合平面の決定:咬合平面設定板、切出刀、ろう堤形成板、パラフィンワックス	2026/5/14	54	―
	301	訂正あり	103B52,53 画像所見	義歯:～。右側での咬合接触はみられるが、右側では咬合接触がみられない	義歯:～。左側での咬合接触はみられるが、右側では咬合接触がみられない	2026/10/23	305	訂正あり
8.冠橋義歯学 インプラント	28	―	109C130 問題文	解答:①．② ※①②にはそれぞれ0～9のいずれかが入る。	解答:①② ※①には0か1、②には0～9のいずれかが入る。	2026/6/30	28	―
9.小児歯科学	別冊58	―	No.128の問題番号	No.128　115C79	No.128　111A69	2026/8/10	―	―
10.歯科矯正学	331,332	訂正あり	118B48 画像所見 d肢解説	口腔内:❶右側Angle Ⅰ級 ×d:右側はAngle Ⅰ級であるため上顎右側大臼歯の遠心移動を行う必要はない。	口腔内:❶右側Angle Ⅲ級 ×d:右側はAngle Ⅲ級であるため上顎右側大臼歯の遠心移動を行うと大臼歯関係はさらに悪化する。4⌋ の抜歯空隙は、前歯の舌側移動だけでなく、上顎右側大臼歯の近心移動にも利用する必要がある。	2026/8/7	―	―
	358	訂正あり	110D3 e肢解説	また、下顎前歯はやや下側傾斜しているため、少し唇側傾斜させることと前歯のストリッピングによりスペースが獲得できるため、叢生も改善される。	また、下顎前歯はやや舌側傾斜しているため、少し唇側傾斜させることと前歯のストリッピングによりスペースが獲得できるため、叢生も改善される。	2026/5/19	361	訂正あり
13.歯科麻酔学 歯科放射線学	278	訂正あり	115B49 b,d,e肢解説	×b:パノラマエックス線画像で左側下顎管の下方圧排は確認できる。 ×d,e:左側下顎枝部の頬舌的骨膨隆、左側下顎枝前縁の皮質骨菲薄化は、頭部後前方向撮影エックス線画像で確認できる。	×b,e:パノラマエックス線画像で左側下顎管の下方圧排、左側下顎枝前縁の皮質骨菲薄化は確認できる。 ×d:頭部後前方向撮影エックス線画像で左側下顎枝部の頬舌的骨膨隆は確認できる。	2026/9/29	281	訂正あり

― : 訂正内容該当なし（該当の記述なし、または修正済みなど）